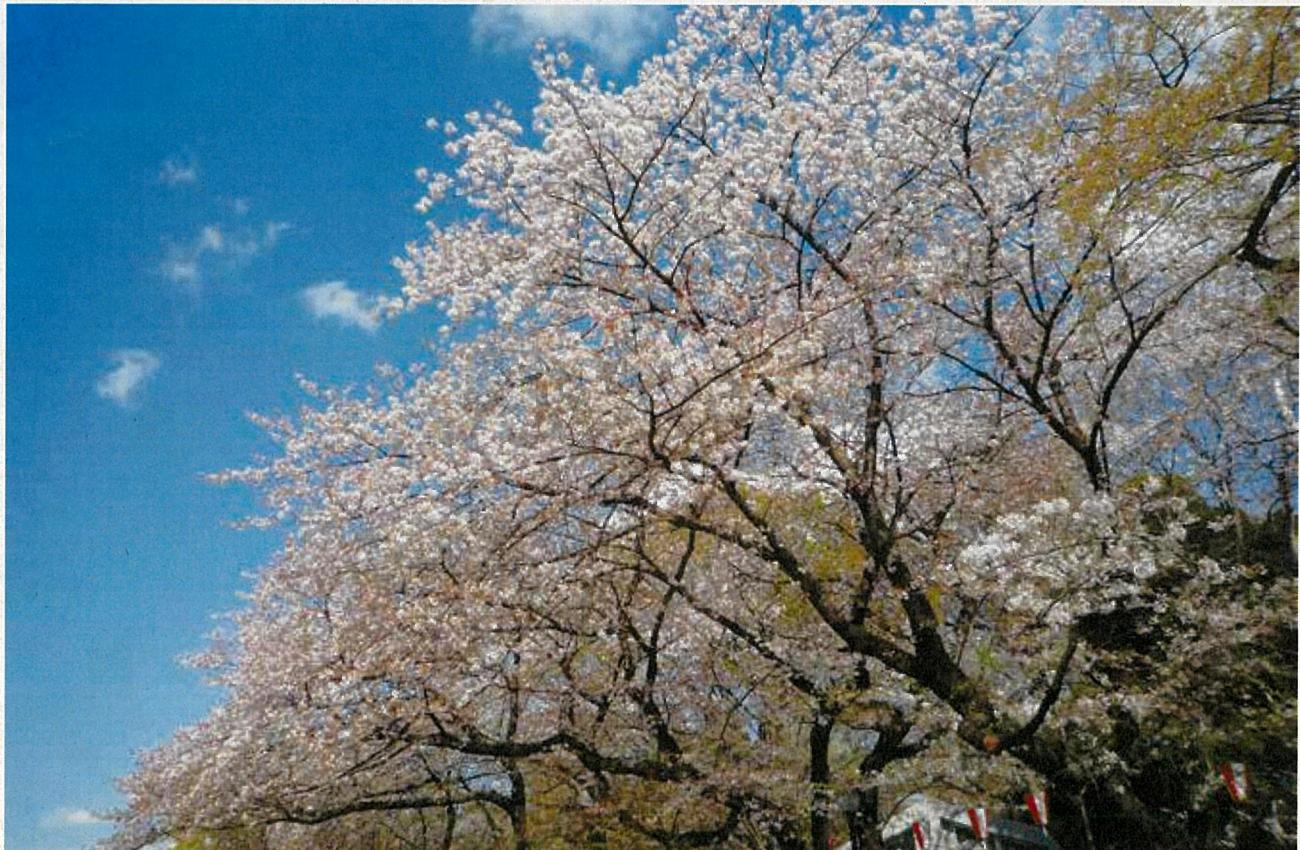



船橋市立医療センターNews No.28

●発行年月日/平成28年4月1日 ●編集/船橋市立医療センター広報委員会 ●発行責任者/院長 高原 善治
〒273-8588 船橋市金杉1-21-1 ☎047-438-3321(代) <http://www.mmc.funabashi.chiba.jp/>



「上野の桜と青空」当院職員撮影



日本医療機能評価機構の認定を受けて

船橋市立医療センター院長 高原 善治

昨年10月に日本医療機能評価機構の最新のバージョンを受審し、その結果、本年1月15日に認定を受けました。この機構は平成7年に厚生省、日本医師会、病院団体をはじめとする関係者で設立されました。その事業は多岐にわたっていますが、その中でも中心的な事業が「医療の質と安全」の面から訪問調査を行い、明らかとなつた課題の改善を支援する認定業務とされています。また今年度から日本医療機能評価機構の認定は一部の診療報酬の条件に組み込まれるようになりました。当院では平成12年に最初の「一般病院別B、Ver. 3.1」を取得し、その後平成17年にはVer. 4.0を、平成22年にはVer. 6.0と更新してきました。今回受審したのは平成25年に機構が取得した国際認定プログラムIAPに即した、3rd G: Ver. 1.1です。結果は、S(優秀)、A(よくできている)、B(標準である)、C(標準に至らない)で評価されましたが、審査項目の80%がAランク以上で、Cはありませんでした。今後も今回の審査で指摘された意見をもとに、更に医療の質と安全を確保すべく努力しております。

新年度に際して人事異動を行いました。市民の皆さんに信頼される医療を目指し、新しい体制で前進していきたいと思います。

目次

病院事業管理者あいさつ／病院機能評価	2	特集 心臓超音波室	6～7
新任者・退任者あいさつ	3	公開医療講座／がん市民公開講座	8
医療連携・患者支援センター設立／薬剤局長の演題が選出…	4	救命救急センターの現場から／人事異動紹介／職員募集…	9
当院で働く人々／研修医のつぶやき	5	外来担当医師一覧表	10

病院事業管理者あいさつ

～新病院建設へ向けて大きな一歩～

船橋市病院事業管理者 鈴木 一郎

平成21年に事業管理者として当院に赴任してすぐに、職員にも市民にも広く病院内の出来事、取り組みを知ってもらおうとこの医療センターNews発行しました。その第1号で「689人を乗せた巨艦がまさに動き出した感がある」と結んだのがついこの間のような気がします。それから既に7年が経過し、改革プランから始めた3ヵ年ごとの経営改善計画も既にⅢ期中期計画が進行中です。この間に職員は大幅に増え、4月1日現在の職員数は986人となり、事業規模も大きく伸び、診療機能も年々整い、高度急性期病院として地域での役割もしっかりと果せるようになりました。それは昨年10月に受審した病院機能評価機構の評価結果にも現れ、多くの項目で高い評価を得る事ができたことは職員皆の喜びでした。

さて、先の第一回定例会の冒頭、松戸船橋市長は市政執行方針の中で、海老川上流地域に市立医療センターを移設し、医療・福祉機能を街の中核とする「メディカルタウン」構想を表明されました。

そして“新しい船橋市立医療センターの在り方に関する検討委員会”は3月30日に報告書をまとめ、「現在の医療センターは設備の老朽化、施設の狭隘化、施設機能の分散配置など課題があり、できるだけ早期の移転建て替えが必要であり、移設候補地としては現在の位置を中心とした周辺地域が望ましいことから、海老川上流域への移設は医療センターの機能を十分発揮できる候補地」として報告しています。

海老川上流域は約78haあり、医療センターを中心としたメディカルタウン構想は壮大で夢のある大事業です。事業達成までには多くの障害も有るでしょうが、新病院の建設は、職員は無論、市民の多くが待ち望んでいると思います。是非早期の実現に向けて力強く進めていただきたいと思っています。

平成28年は新病院建設に向けて、大きく一歩を踏み出してスタートした年になりました。



日本医療機能評価機構の認定を受けました

当院は、財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、機構の定める評価項目をすべて達成していることが認められ、平成28年1月15日に「一般病院2 3rdG : Ver.1.1」の認定を受けました。

評価対象は、「患者中心の医療の推進」「良質な医療の実践1・2」「理念達成に向けた組織運営」の4つの領域に分類され、それぞれに評価項目が設定されています。

- 当院では特に、
- 紹介率・逆紹介率ともに高水準を維持するとともに、多数の機関・団体の参加による医療介護連携研究会を発足させるなど地域の医療関連施設等との適切な連携
 - 患者さんとその家族の不安を軽減させるための「患者サポートセンター」をはじめとするチーム医療の取り組み
 - そして、救急患者を積極的に受け入れ、緊急手術、検査、処置に十分対応できる救急医療機能
- の3項目で、秀でているS評価とされました。
- これからも、当院の理念である「患者さんに信頼される医療」の提供に努めてまいります。



新任者あいさつ



副院長（診療局長、医療安全管理室長）丸山 尚嗣

4月より副院長を拝命致しました。未曾有の高齢化社会を向えて皆が安心して暮らしていくために、この船橋市あるいは東葛南部医療圏の中で船橋市立医療センターがどんな診療機能を担っていくのか。開院以来30年以上経過して設備が古く狭くなってきた現状から病院建て替えの計画も立ち上がっていますが、皆の英知を集めて当院が果たすべき役割を着実に実行していく必要があります。地域のなかで多職種と連携を図りながら、その実現に向けて努力したいと思います。

また3月で退職された唐澤副院長の後を継ぎ、医療安全管理を担当することになりました。患者さんと病院スタッフが共に安心して安全な医療を提供できるよう全力を尽くしますので宜しくお願いします。



副院長（看護局長）伊藤 淳子

このたび、副院長兼看護局長を拝命いたしました。

病院における看護局に期待される役割がいかに大きいかを改めて認識し身の引き締まる思いです。今年4月1日から、看護局に、看護職のほかにクラーク、メッセンジャーが配置されました。患者さんに選ばれる病院、患者さんが安心して笑顔になれる病院は、医療職に限らず全職員が、楽しくイキイキと働き、その力を最大限に発揮しているものと思います。その実現に向け、組織を俯瞰する目を持ちつつ、患者さんご家族、職員の声に耳を傾け、多職種で協働して一つ一つの課題解決に取り組んでいけるように努力していきたいと思います。

「信頼しあえる職場」をみなさんとともに作っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。



眼科部長 小林 晋二

このたび、眼科部長に就任させていただくこととなりました。

平成26年の赴任以降、当科では、網膜の形の変化を記録する光干渉断層計の導入、糖尿病網膜症などの疾患治療に大きな役目を果たす、眼科レーザー装置の更新といった変化がございました。ごく最近にも、眼科用電子カルテシステムの導入があり、これらを使った、診療の質の向上が望まれている、と強く感じております。

一方で手術については、現在需要に追いつかず、半年ほどお待ちいただいている地域の患者さん、連携医の先生方にご迷惑をお掛けし心苦しいところでございます。状況の改善が現在の課題です。今後とも当科を宜しくお願い申し上げます。



副看護局長 川崎 志紀子

平成28年4月1日より、副看護局長・手術室看護師長を拝命いたしました。これまで、ICU・CCU病棟の看護師長として患者さんとそのご家族のこと、スタッフのことなど病棟中心の視点で動いていました。その中で患者さんが安心して入院生活を送ることができ、職員が働きやすい環境を整備してきました。

4月から副看護局長と手術室看護師長の兼務となり、手術室のスタッフと共に現場力を強化しながら、救急部門の企画運営に携わり組織のために何をすべきか、今後の新病院建設に向けて時代を先取りして将来を見定めながら頑張って行こうと思います。皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

退任者あいさつ



副病院局長（事務局長）石井 克幸

船橋市職員として38年間、その締めくくりの2年間を当院で勤務させていただき、3月31日を以て定年退職致しました。在職中のご協力、ご厚意に感謝申し上げます。

少子・高齢化の進展や社会保障制度の見直しなど医療を取り巻く環境が大きく変化する中、救急医療、災害拠点病院、地域医療連携などの自治体病院として担うべき役割も幅広く、船橋市域のみならず東葛南部地域での中心的役割が期待されています。

今後も質の高い医療を提供し、市民の皆様から信頼され、安心して医療が受けられる病院であり続けるため、スタッフの皆様にはより一層のご尽力をお願い申し上げますとともに、当院の益々の発展をお祈り致します。

医療連携・患者支援センターを設立しました

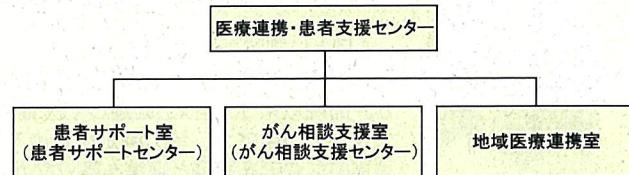
平成28年4月より、医療連携・患者支援センターを設立し、その下に患者サポート室・がん相談支援室・地域医療連携室の3室を再編しました。今後はそれにおける患者さんへのサポート充実を図っていきます。



医療連携・患者支援センターは、当院を受診された患者さんの診療がスムーズに進み、再び地域に戻られるまでの全課程をバックアップするために既存の組織を統合・強化して設立しました。

通院・入院・退院後はどうすればよいのか、病気や検査・治療についての疑問、医療費に関して分からぬことなどを一緒に考え、患者さんが何の不安もなく治療に専念していただけるようバックアップします。当院の医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなど全ての職種が力を合わせて、また地域の主治医、看護師、介護関係者、行政などとも連携して患者さんを支える体制を整えておりますので安心して当院で診療をお受けください。

センター長 多部田 弘士



医療連携・患者支援センターは3つの機能を持つ統合的なセンターです。地域医療連携室は地域の医療・保健・福祉施設との連携を推進し、顔の見える連携を目標にしています。

がん相談支援室は、患者さん、ご家族からの様々なご相談やご意見をお伺いしています。地域がん診療連携拠点病院としての「がん相談支援センター」の窓口でもあります。

患者サポート室は、入院前に薬剤師による服薬確認と看護師による病歴聴取、クリニカルパスの説明等を行います。必要に応じて医療ソーシャルワーカー・退院調整看護師・栄養士など多職種による支援を早期から行います。患者さんやご家族から「相談してよかったです」と思っていただけるよう、信頼関係を大切に、包括的で継続的な質の高いケアを目指します。

副センター長 小松 邦子



菅原克也薬剤局長の発表が優秀演題に選ばされました

平成27年10月8日・9日に開催されました第54回全国自治体病院学会において、当院の菅原克也薬剤局長の発表演題「安全な業務遂行を目的とした薬剤局内eラーニングの試みと評価」が優秀演題に選ばされました。今後、菅原薬剤局長の演題が全国自治体病院協議会の発行する機関誌に掲載されます。

今回の件について、菅原薬剤局長は次のように喜びを語りました。

「この度私の発表を優秀演題として選んで頂きました。大変名誉なことと喜んでおります。共同演者の方々をはじめご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

今回参加した学会は全国の自治体病院職員が医療研究や業務改善の成果を発表するものです。医師・看護師・薬剤師等の医療職、事務職など職種毎にある分科会の中で、薬剤分科会で発表を行いました。発表は医療安全をテーマとして『日常業務の中で医療安全を徹底するためには職員間の業

務に対する共通認識が必要とされます。認識を徹底する工夫としてパソコンによるトレーニングシステム（eラーニング）を試み評価しました。多忙な職員に自分の担当以外の業務理解徹底を求めるることは通常難しいですが、eラーニングを有効に利用すればその課題は解決できることがわかりました。』という内容でした。

医療安全と業務改善というテーマは尽きることのないものです。この優秀演題選出を励みにして、今後ともより良い業務に努めます。ありがとうございました。



面会の終了時間を午後8時までに延長しました。

当院で働く人々

～保健室の仕事～

保健室は当院で働く医師、看護師をはじめ、すべての職員の健康支援を目的に活動しています。具体的には、健康診断(定期・雇入れ・特定業務従事者等)の実施、健診結果票の作成及び通知、院内感染防止のための予防接種の実施、健康診断後のフォロー、心身両面の健康相談、人間ドック利用承認書の発行、保健室だよりの発行等、健康に関わる業務に従事しています。

当院は院内で職員の健康診断を実施しており、関係部署と連携して、職員が忙しい勤務時間内にスムーズに受検できるように日々奮闘しています。

病院に勤務している職員は、患者さんことを第一に考え、自分の健康は後回しにしがちです。保健室は、職員が心身ともによい健康状態でいる自己管理ができるようにお手伝いすることで、患者さんへのよりよい医療やサービスの提供につなげたいと考えています。

保健師 山本 賢恵・蜷川 直子



研修医のつぶやき



初期臨床研修医2年 朴 実樹

昨年の4月より当院で初期臨床研修医として働いています。3月も間近になり、最近はやっと日も少しずつ長くなり始め、朝出勤のときに車のフロントガラスが凍り付いていない日もあります。そんなことからもう春が近づいてくる兆しを感じるのは気が早いでしょうか。

初期臨床研修医制度は医学部卒業後2年間のプログラムです。これを終了した後、当院や各大学など他施設で専門に分かれ後期研修プログラムで研鑽を積んでいくという流れになります。

春と言えば、先輩研修医が当院の初期臨床研修を旅立ち、私たちが2年次になるということです。それが近づいているということを感じる機会が先日もありました。

平成28年2月17～19日に当院で院内研究発表会が行われました。1年次は経験した症例の発表を行い、2年次は統計的分析を行うのが慣例となっています。2年次の先

輩はみな進む専門も決まり、その科における高度な知識と考察を発表から感じました。自分たちの初期研修残り1年の目標として、大きな刺激となったと同時に、公私とも仲良くしてきた先輩の修了が近い物寂しさも少し感じました。

このように私たち初期臨床研修医は知識、技術は成長の途上にあります。上級医にとっては当然のことでもみな新鮮で学びのあるものです。困ったことや疑問に思うことがあれば、些細でも、関係ないと思われることでも気軽にお話し下さい。足りないことも多々あるとは思いますが、誠意をもってお答えし、患者さんやご家族のために少しでも役立てれば幸いと思っています。



当院は省エネに取り組んでおります。ご協力お願いいたします。

特集

心臓超音波(心エコー)室

当院B館2階の中央検査室に心臓超音波室があります。

心臓の検査をする事は何となくわかって頂けるとは思いますが、実際どのような事をしているのかを紹介したいと思います。

検査装置と画像システム

当院では超音波検査装置4台で検査を行っています。

検査画像は、画像ファイリングシステムに保存され、前回との比較や、心臓カテーテルと画像共有ができるようになっており、電子カルテシステムでも参照できます。



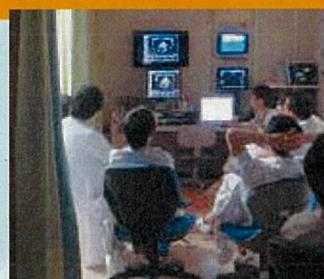
当院での使用装置

画像システム

検査と診断

臨床検査技師6名（超音波検査士）と循環器内科医師で検査と読影（画像診断）を行っています。

ほぼ毎日、循環器内科医師、心臓血管外科医師、臨床研修医、臨床検査技師の10～15名で心エコーカンファレンス（症例検討）を実施しています。



心エコーカンファレンス風景

心エコー検査とは

検査方法は大きく分けて二つあり、体の表面から検査する**経胸壁心エコー検査**と、食道側から検査する**経食道心エコー検査**があります。

経胸壁心エコー検査

経胸壁心エコー検査は体の表面から超音波を体内にあてて、そこからの反射を集めて合成し、画像をリアルタイムに表示します。この超音波そのものは人間には聞こえない音で、人体に害はなく繰り返し検査を行う事ができます。心臓の「今」の状態を知る事ができるため、循環器領域の診断には欠かせない検査です。

適応となる疾患や病態は多く、左室肥大、弁膜症、肥大型心筋症、先天性心疾患、心膜液貯留、心筋梗塞や狭心症に伴う壁運動異常、感染性心内膜炎、心臓内血栓、腫瘍、肺高血圧症、大動脈解離などがあげられます。



経胸壁心エコー検査
イメージ



経胸壁心エコー検査
風景



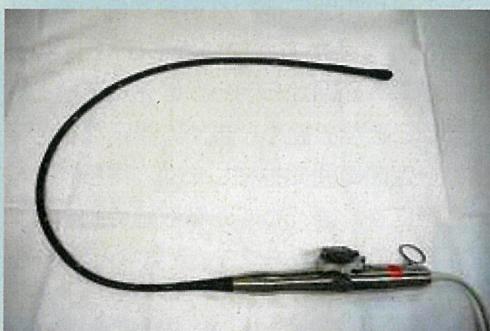
経胸壁心エコー検査
画像

経食道心エコー検査

経食道心エコーでは胃カメラのようなチューブ状の超音波機器（プローブ）を患者さんに飲み込んでもらい、心臓のすぐ後ろにある食道から心臓を観察します。経胸壁心エコーで問題となる皮下脂肪や肺、肋骨などの影響を受けずに高画質で高解像度の画像を得る事ができます。

そのため、経胸壁心エコー検査で観察が困難な疾患や構造物の観察に適しています。

弁膜症、先天性心疾患、不整脈、感染性心内膜炎、大動脈疾患などが検査適応となります。また、塞栓症での塞栓源の検索や、心房細動に対する除細動やカテーテルアブレーション治療の精査目的でも多く行われています。



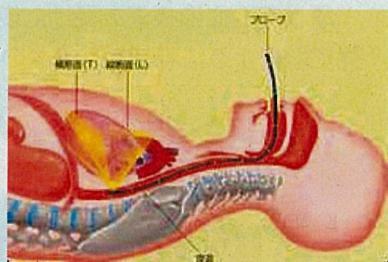
経食道エコープローブ



プローブの大きさをボールペンと比較



経食道エコー風景



経食道エコーアイイメージ



経食道エコー画像

最近では

3D心エコーが臨床で用いられるようになってきました。特に経食道心エコーにおける3D心エコーは解像度も高く診断に適しています。平面ではなく立体的に心臓を描出できるため評価や計測がしやすい利点があります。弁膜症では弁の逸脱の部位や逆流が確認しやすいと言えます。

当院でも、3D描出できる検査装置と解析システムを導入し、最新技術を積極的に取り入れています。



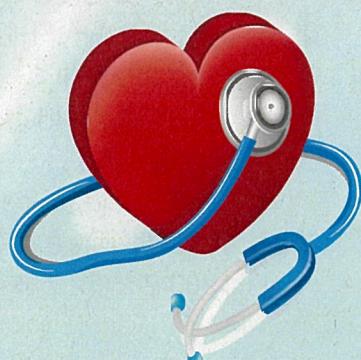
3D心エコー画像

今後は

循環器疾患の診断・治療において、心エコーの果たす役割は大きくなっています。最近では循環器疾患にとどまらず幅広い領域の臨床現場で必要不可欠な診断ツールとして活躍してきています。

心臓超音波室として、正確な診断、より良い治療ができるように日々努力をしてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

医療技術部臨床検査科 佐々木 弘行



「血液検査・尿検査の 検査結果の見方～正常範囲・基準範囲とは～」

第25回 公開医療講座



を開催しました

1月28日（木）に市民文化創造館（きらら）にて、栗井康伸臨床検査科副主任技師を演者とした公開医療講座を開催しました。

尿検査や血液検査を受けた後、検査室でどのような作業が行われ、検査結果が出ているのか、検査結果を見てどのように判断すべきなのが動画や写真で丁寧に解説しました。栗井副主任技師は「健康判断のうえ

で大切なのは、自分自身の健康時の値を知ることです。検査結果を見る際に目安となる基準値とは、健康な人の95%の人が含まれる範囲のことです。自分の検査結果と比較する際には、その値や範囲に捕われ過ぎずに、あくまで一般的な目安だと考えた方がいいかもしれません。もちろん、検査値が基準範囲から明らかに外れている場合は医師に相談することをお勧めします。健康な状態で得られる検査値は一定の範囲で推移します。得られた検査結果を自分の基準にすれば、わずかな数値の動きも把握でき病気の早期発見にも役立ちます。元気なときこそ、自分の基準値をみつけるチャンスです。」と語りました。



第9回 がん市民公開講座

「がんに対する新しい免疫療法」を開催しました

3月6日（日）に市民文化創造館（きらら）にて第9回がん市民公開講座を開催しました。今回は「がんに対する新しい免疫療法」をテーマに、平野聰腫瘍内科部長（がん薬物療法専門医）、太田俊哉薬剤師（がん薬物療法認定薬剤師）の2名が講演しました。

今回のテーマである「新しい免疫療法」とは、従来の免疫療法と違い、ヒトがもともと持っている“がんに対する免疫力”を回復させることに着目した分子標的薬（免疫チェックポイント阻害剤）を使用します。まだ適用できる症例も少なく、薬価も非常に高額です。副作用は、従来の抗がん剤よりも軽度である場合が多いですが、時として免疫に関連した重篤な副作用が見られることもあります。

しかしながら、免疫チェックポイント阻害剤は悪性黒色腫や再発非小細胞癌に対して、従来の抗がん剤よりも高い効果が期待されています。

当日は200名を超える多くの方々にご参加いただき、皆さん真剣な表情で聞き入っていました。



病院ボランティア（患者さんの案内や図書の整理など）を募集しています。詳しくは、医事課まで

救命救急センターの現場から ～小児救急（病気編）～

毎日、たくさんのお子さんが、夜間、休日に救急外来を受診しています。お子さんの病状により、帰宅という患者さんもたくさんいらっしゃいます。お子さんのことですから何か症状があると、ご両親が心配されて急いで病院に行かなくてはと受診されるのだと思います。でも発熱(38℃以上)、下痢、嘔吐などでも元気（機嫌）が良く、水分・食事が取れ、おしっこが出ているのであれば、慌てる必要はありませんので通常の診療時間に受診してください。判断がつかなければ夜間休日急病診療所を利用して下さい。しかし、意識がおかしい、呼吸がおかしい、おしっこが出ないなど、または次に述べる症状がある時は、救急車を呼ぶか、急いで病院を受診してください。

1) 発熱 (38℃以上)

生後3ヶ月未満である、意識がおかしい、ぐったりしている、すぐ眠ってしまう、呼吸がおかしい、水分が摂れない、おしっこがでない

2) 下痢、嘔吐

意識がおかしい、粘血便（イチゴジャムのような）便が出る、吐物に血が混じるまたは吐物が緑色、コーヒーの残りカスのような色が混じる、頭を強く打ってから24時間以内である、水分が摂れない、おしっこがでない

3) 腹痛

顔色不良で歩行困難、お腹を触ると筋肉を固くして痛がる、股の付け根や陰嚢が腫れている、不機嫌で泣き止まずぐったりしている、うんちに血が混じっている、お腹がパンパンに張っている、痛みのために歩行困難である

当センターは、重症な小児救急疾患には小児科医が対応出来るよう診療体制になっていますので上記症状の際は、安心して受診してください。

救命救急センター長
境田 康二



人事異動紹介（4月1日）

	新任者	退任者
副院長	丸山 尚嗣	唐澤 秀治
副院長	伊藤 淳子	

	新任者	退任者
医局	小林 晋二	上原 七生

	新任者	退任者
臨床検査科	諒訪 直生	

看護局	新任者	退任者
副看護局長	川崎志紀子	
A6病棟師長	永江 咲子	喜浪 正子
A5病棟師長	坂庭 雅代	小松 邦子
B3病棟師長	内匠伊佐子	藤倉 妙子
B5病棟師長	新山 文代	内匠伊佐子
E4緩和ケア病棟師長	藤倉 妙子	永江 咲子
ICU・CCU師長	落田 浩子	川崎志紀子

診療科名	採用者	退職者
呼吸器内科	藤田 哲雄	廣石 拓真
消化器内科	徳長 鎮	山内 陽平
循環器内科		市川壮一郎
小児科	武井 悠	白鳥恵理佳
外科	貝沼 修	水内 喬
乳腺外科	玉貫 圭甲	金田 陽子
整形外科	向井 務晃	山田 学
形成外科	内田 龍志	菅野 真彦
脳神経外科	森脇 拓也	谷口 慎治
心臓血管外科	坂田 明基	後藤 広和
皮膚科	川島 秀介	若林 豊
眼科		大田 玲奈
耳鼻咽喉科	長坂 強	上原 七生
麻酔酔病科	武光美香子	堀中 敦史
救命救急センター	鳥海 博司	大野真理子

※人事異動に伴い、外来診療体制が変更されています。（詳しくは、10ページをご覧ください。）

平成28年度 募集概要

看護補助者（パート）募集

●資格／特になし

●時給／1030円

●勤務時間等

8～18時のうち当院が指定する8時間（実働7時間、休憩1時間）

土日祝日、年末年始を含む週5日

※看護師を対象とした病院説明会を開催しています。

※詳細は当院ホームページ(<http://www.mmc.funabashi.chiba.jp>)をご覧ください。

外 来 担 当 医 師 一 覧 表

平成28年4月1日現在

	月	火	水	木	金	備考
内科	新患	徳長 鎮・交替医	中村(俊)/柳澤	下山 立志	〔交替医〕	巴山紀子・廣石拓真 新患の(火)は第1・3・5中村(俊)、第2・4柳澤
	呼吸器	中村 祐之 藤田 哲雄	天野 寛之 中村 純 巴山 紀子	廣石拓真・〔交替医〕 中村 純 天野 寛之	多部田弘士 小林 照宗	消化器の(火)関、(水)安藤/石垣、(木)水本/東郷は消化器内科からの予約患者のみ
	消化器	水本 英明	安藤 健 関 厚佳	東郷 聖子 安藤 健/石垣飛鳥	関 厚佳 石垣 飛鳥 水本英明/東郷聖子	腫瘍は、肺がん、縦隔腫瘍、原発不明がんが対象
	代謝	岩岡 秀明	下山 立志	中村 俊介	下山 立志	岩岡 秀明
	腫瘍	平野 聰				平野 聰
心臓血管センター	循環器内科 予約	内山 貴史 稻垣 雅行	福澤 茂 黒岩信行 沖野 晋一	前川 潤平 稻垣雅行・内山貴史	黒岩 信行	福澤 茂 前川 祐子 ※(水)は第1・3・5稻垣、第2・4内山
	新患	前川 祐子	[交替医]	[交替医]	関根有希子	[交替医]
	心臓血管外科	[手術日]	高原善治・茂木健司	[手術日]		[手術日] 午後1時30分から ※第1・3・5高原 ※第2・4 茂木
緩和ケア内科			[交替医]	[交替医]		午前9:00~ 予約患者のみ
精神科	新患 再来			榎原 雅代		新患は事前予約が必要 (電話も可)(月)午後のみ
小児科	高橋 香 武井 悠	宇田川雅彦	宇田川雅彦	宇田川雅彦	宇田川雅彦	
外科	消化器・一般	宮崎 彰成 吉岡 隆文	佐藤 純一 内山 薫	丹羽 淳子 〔交替医〕	木谷 豊 竹本 直輝	伊賀 裕子 坂井 美穂
	乳腺	松崎 弘志		丸山 尚嗣 野手 洋雅	田中 元修 貝沼 浩二	宮崎 彰成 (月)松崎 午前のみ (水)丸山 午前のみ (水)吉原 午後のみ
	新患	[交替医]	[交替医]	[交替医]	[交替医]	[交替医]
整形外科	[交替医] 橋本 瑛子 [手術日]	池之上純男 高瀬 完 染谷 幸男	三村 雅也 鮫田 寛明 新保 純	[交替医] 秋本 浩二 [手術日]	[交替医] [手術日]	(火)・(水)は予約患者のみ (紹介状ありは可)
形成外科	[手術日]	葉丸 洋秋	葉丸 洋秋	[手術日]	内田 龍志	
脳神経外科	内藤 博道 新美 淳 根本 文夫	[交替医] [手術日]	畠山 和己 内藤 博道	安間 芳秀 森脇 拓也 [手術日]	根本 文夫 畠山 和己	
呼吸器外科	内田 修 一ノ瀬修二	内田 修 一ノ瀬修二	[手術日]	木下 孔明 内田 修一ノ瀬修二	[手術日]	
皮膚科	川島 秀介 井関 梢	川島 秀介 宮川 健彦	川島 秀介 金親 香子	川島 秀介 宮川 健彦	川島 秀介 根岸麻有子	予約患者のみ (紹介状ありは可)
泌尿器科	武田 英男 黄 和吉	佐藤 信夫 樋口 耕介	佐藤 信夫 [手術日]	佐藤 信夫 安藤 敬佑	佐藤 信夫 〔交替医〕	
産婦人科	斎藤 俊雄 佐々木直樹	森 麻子 〔交替医〕 [手術日]	斎藤 俊雄 佐川 泰一 [手術日]	長嶋 武雄 〔交替医〕	佐々木直樹 長嶋 武雄 [手術日]	
眼科	小林 悠里 谷口 有子	松枝 美文 [手術日]	上原 七生 松枝 美文	上原 七生 小林 晋二	小林 晋二 谷口 有子	(火)・(水)は予約患者のみ (紹介状ありは可)
耳鼻いんこう科	小林 皇一 長坂 強	[交替医] 派遣医師 [手術日]	小林 皇一 長坂 強	[交替医] 派遣医師 [手術日]	小林 皇一 長坂 強	
放射線治療科	岩井 祐磨	有賀 隆	小池 直義	有賀 隆	有賀 隆	完全予約制
麻酔科	[交替医]	[交替医]	[交替医]	[交替医]	[交替医]	午前9:00~11:00 予約患者のみ
歯科口腔外科	村野 彰行	永塚啓太郎・村野彰行	村野 彰行	肥後盛洋・村野彰行	村野 彰行	
特殊外来	女性専用(内科)		古池 織恵			予約患者のみ
	腎臓内科(内科)		梶原麻実子			午後1:30~ 予約患者のみ(電話も可)
	神経内科(内科)		大原 正裕			午後1:30~ 予約患者のみ(電話も可)
	ステントグラフト(外科)	桜井 学				午後1:30~
	ベースメーカー外来		[交替医]			午後1:00~
	小児循環器(小児) 佐藤 純一 竹本直樹 [交替医]	村社 歩美	佐藤 純一			午後 予約患者のみ (火)は第2・4
	小児神経(小児)			林北見・牧野道子		午後 予約患者のみ 月1回
	小児腎臓(小児)			秋岡 祐子		午後 予約患者のみ 月2回
	小児アレルギー(小児)				下条 直樹	月1回 午前9:00~予約患者のみ
	小児外科(外科)			小松 秀吾		
	脳神経内科(脳神経外科)				東 美和	午前9:30~ 予約患者のみ

担当医師は、状況により変更することがありますので、受診の際には当院のホームページ等でご確認ください。

※特殊外来の小児循環器、小児神経、小児腎臓、小児アレルギーの予約および予約変更は午後2時から4時の間に小児科外来へ電話してください。